

# 埼玉県立自然の博物館研究報告投稿規定

平成28年7月15日作成  
平成30年5月31日 一部改訂  
平成31年2月22日 一部改訂  
令和3年4月1日付 一部改訂  
令和6年4月1日付 一部改訂

本研究報告は、自然史と博物館学及びそれに関連する分野の原著論文、総説、短報、資料、その他編集委員会が適当と認めたものを掲載する。投稿者は主に当館職員及び当館外部研究者とし、一般投稿者による投稿は、原則として埼玉県又は当館所蔵の標本と関連する内容とする。

## I 投稿の方法及び掲載までの流れ

### 1. 投稿予告カードの送付

原稿の投稿に先立ち、別紙に定める投稿予告カードを期日までに埼玉県立自然の博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）に提出する。

### 2. 初稿の投稿

初稿は、投稿規定に従って作成した原稿を投稿整理カードとともに、期日までに編集委員会に提出する。投稿予告カードが提出されていても、期日までに初稿が提出されない場合は、当該号への掲載は見送る。原稿は電子ファイルでの提出とする。

※情報セキュリティの観点から電子ファイル転送サービスは使用できない場合があるため、Eメールによる送受信ができない容量のファイルは、電子媒体（CD、DVD等）で提出するものとする。

### 3. 原稿の受付及び掲載の可否

原稿は本投稿規定に則った場合に限り受け付ける。投稿規定に反する原稿は、編集委員会が著者に返却する。編集委員会は、原稿の受付後に掲載の可否を決定する。

掲載を可、修正の上可、又は保留と判断した場合、編集委員会が原稿の文章の構成等についての校閲を行う。掲載を否と判断した場合、その理由を明らかにした文章を付して著者に原稿を返却する。

編集委員会は、掲載を修正の上可とした場合、著者に修正を求めて原稿を返却する。著者は、指摘された箇所を修正し、期限までに再提出する。修正を行わない場合は、その理由を付して再提出する。また正当な理由なく提出期限が守られない場合、当該号への掲載は見送ることがある。

編集委員会は、掲載を保留とした場合、その理由を明らかにし、修正を求めて原稿を返却する。著者は、指摘された事項を修正し、期限までに再提出する。編集委員会は再提出された原稿について再度掲載の可否を判断する。

なお、提出された原稿について、当該分野の専門家による審査（いわゆる査読）は実施していない。

### 4. 最終稿の送付

著者は掲載の予告を受けた後、最終原稿が入力されている電子データを編集委員会に提出する。この時、電子ファイル上でイタリック体、ボールド体を明示する。

### 5. 校正

著者校正は初校のみとする。再校正以後は編集委員会が行う。なお、校正は誤字脱字、図表の品質や大きさの変更のみとし、文章の書き換えや新たな付け加えは原則として認めない。

### 6. 原稿の返却

原則として、掲載された原稿や図、表などは返却しない。

### 7. 著作権

埼玉県立自然の博物館研究報告に掲載された論文の著作権（著作財産権（Copyright））は、埼玉県立自然の博物館に帰属する。掲載された論文は研究報告で出版するほか、外部の学術論文データベースサイトに掲載する。出版後、当該論文のPDFを著者に配布するが、このPDFの再配布及びウェブサイト等での公開は著者の自己責任により行うことを可とする。

## II 原稿の種類

原著論文 (Original Article) : 自然史分野に関する新たに得た学術的知見をまとめ、考察した未発表のもの。

総説 (Review) : 自然史分野の論文や学説などを総括、解説、あるいは考察したもの。

短報 (Short Report) : 新事実、新産地などの簡単な報告など。

資料 (Miscellaneous) : 考察を加えない生のデータ、新知見を有する技術開発の報告、調査、研修、学会参加などの報告、資料目録、教育普及活動、意見など。

その他 : 編集委員会が認めたもの。

### III 原稿の体裁

1. 記述方法は、和文又は英文とする。A4用紙に横書きとし、和文・英文とも字体11ポイント、20行40字で作成する。英文の場合には、ダブルスペースとする。
2. 上下には3 cmの余白を設け、ヘッダーを用いて各ページの右上に著者名を入れる。
3. 原稿は引用文献の最終ページまで連続したページ番号をつける。また、ページごとに行番号をつける。
4. 原則として、脚注は用いない。
5. 論文の長さは、原著論文が刷り上がり12ページ以内、総説は16ページ以内、短報は4ページ以内とする（本報告の刷り上がり構成は、43行1行27字の2段組で字体9ポイント）。これを超過するものについては、編集委員会が掲載の可否を判断する。

### IV 原稿の構成

1. 表題・著者名（1ページ目）
  - ・表題及びランニングタイトル（和文の場合20字以下、英文の場合40字程度）、著者名、所属とその所在地を明記する。所属のない場合は、自宅住所（公開を希望しない場合は市町村名まで）を明記する。また、代表者1名についてはEメールアドレスの掲載も可とし、所在地の後に追記する。なお、代表者が自宅住所の非記載を希望する場合は、Eメールアドレスの掲載を必須とする。
2. 要旨・キーワード（1ページ目）
  - ・原著論文・総説には、要旨をつける（和文は400字以内、英文は150単語以内）。
  - ・表題に含まれない単語を用い、内容に深く関わる語句で1語以上6語以内とする。
3. 本文（2ページ目以降）
  - ・本文は、原稿のページを改めて書き始める。
  - ・本文の構成は原則として、はじめに、研究方法、結果、考察、謝辞、引用文献とする。
  - ・ひらがな・カタカナ・漢字は全角文字、ローマ字と数字は半角文字とする。
  - ・半角アルファベットを用いた場合は、その前後に半角スペースを挿入する。
  - ・和文における句読点等は全角で、. ; : 「」 ( ) “ ” ーなどを用いる。英文ではそれぞれ半角を用い、後ろに半角スペースを挿入する。
  - ・和文では、ひらがな漢字まじりの口語体で書く。現代仮名遣いを用いる。漢字は当用漢字とする。ただし、固有名詞や慣用語はこの限りではない。
  - ・動植物の和名はカタカナ書きとする。同じ学名の二度目以降の表記は混同の可能性がない限り属名を略記し、命名者名は省略する。
  - ・単位は国際単位系（SI単位系）を用いる。数値と単位の間には、半角スペースを入れる。
4. 表、図
  - ・次の3種に分け、それぞれ番号をつける。
    - 表 (Table) : 本文中に入れる記号、文字、罫線からなるもの。
    - 図 (Fig.) : 本文中に入れる図及び写真。
  - ・図は本文に挿入せず、各々独立した電子データで提出すること。ファイル形式は、線画のみの場合はTIFF又はPNG、写真などを用いた場合はJPEGとする。図は300dpi以上で保存することが望ましい。
  - ・表、図は本文原稿の欄外に挿入箇所を示す。図表の説明（キャプション）は、別紙にまとめて提出する。
  - ・表は、Microsoft Excelのxls又はxlsx形式で提出すること。
  - ・表、図は必ず「印刷プレビュー」等で確認し、そのまま印刷して差支えのないレイアウトで提出すること。
  - ・表、図は原則として1ページ以内に印刷できる大きさとし（最大243 × 168 mm以内）、幅は79.5 mmもしくは168 mmとすることが望ましい（2段組の1段分もしくは全幅）。
  - ・資料に関する図や実物写真にはスケールを入れる。

- ・図表は、モノクロとする。カラー画像はグレースケールに変換する。なお、オンラインで公開される電子ジャーナル版 (PDF) では、モノクロの図表を差し替えて、カラー版を掲載することもできる。カラー化を希望する場合は、最終原稿提出時にカラーの図表データも提出すること。この際、モノクロ図表とカラー図表では、色以外のデータ (図表の大きさ・キャプション等) に変更は加えないこと。

## 5. 文献

- ・引用文献は、本文中に引用されたものに限り、かつその全てを記す。
- ・引用文献は、文章末に一括して著者のアルファベット順に並べて記述する。同一著者は発表年代順に並べる。また、同一著者で同一年のものについては、年号のあとに a, b, … のようにアルファベットを付して区別する。各文献は次の形式で順次記載する。
  - (1) 雑誌の場合：著者名 (姓前名後), 年号. 論文表題. 掲載雑誌名 (英文誌はイタリック体), 巻 (ボールド体) : ページ.  
※ 雑誌の号数は括弧に包んで表示するが、巻が通しページである場合には号数を引用しない。
  - (2) 電子ジャーナルなどオンライン上でのみ公開されている雑誌の場合：著者名 (姓前名後), 年号. 論文表題. 掲載雑誌名 (英文誌はイタリック体), 巻 (ボールド体) : ページ. DOI.
  - (3) 単行本の場合：著者名 (姓前名後), 年号. 表題. ページ数, 発行所, 発行地.
  - (4) オンライン上の電子資料の場合：著者名又は団体名, 題名. アドレス (URL) (アクセスした日付) .(例) 福田 理, 1963. 春日部層序試錐の抗井地質層序. 地調月報, 14 : 95–96.  
藤田至則, 1972a. 日本海の起源. 海洋科学, 4(3) : 14–20.  
藤田至則, 1972b. 日本海のおいたち. 国土と教育, (14) : 32–38.  
Minamiya, Y., Hayakawa, H., Ohga, K., Shimano, S., Ito, T. M. & Fukuda, T., 2011. Variability of sexual organ possession rates and phylogenetic analyses of a parthenogenetic Japanese earthworm, *Amyntas vittatus* (Oligochaeta: Megascolecidae). *Genes, Genet. Syst.*, 86: 27–35.  
Honda, R., Inumaru, M., Sato, Y. & Sogabe, A., 2022. Complete mitochondrial genome of the Japanese Cormorant *Phalacrocorax capillatus* (Temminck & Schlegel, 1850) (Suliformes: Phalacrocoracidae). *Mitochondrial DNA Part B*. 7(8): 1577–1578, DOI:10.1080/23802359.2022.2113753.  
水谷伸治郎・足立 守, 1987. 碎屑性堆積物. 日本の堆積岩. pp. 29–84, 岩波書店, 東京.  
Weaver, J. E. & Clements, F. E., 1929. *Plant Ecology*. 520 p., McGraw-Hill, New York.  
北川博道, ゾウの来た道. オンライン. <https://www.mammothkitagawa.jp/product/akebonoelephant.html> (accessed 2012-9-26) .
- ・日本語・英語以外の言語で書かれた論文を引用した場合には、文献リストの論文名末尾にカッコ書きで付記する。例：(in Russian with English abstract)
- ・本文中での文献引用は、次の例に従う。また、3名以上のものについては「…ほか」又は「… *et al.*」とする。
  - (例) 北沢・小林 (1958) によれば……………  
……………報告されている (恩藤ほか, 1951, 1953a ; Kitazawa *et al.*, 1965 ; Kitagawa & Sakamoto, 2013) .

## 6. 和文の原稿における英語の表記又は英文の原稿における日本語の表記について

- ・投稿原稿の末尾に改ページして、本文が和文の場合は英語、英文の場合は日本語を用いて、表題、著者名、所属・所在地、キーワードを明記する。原稿の種類が原著論文、総説の場合、併せて要旨を各言語に翻訳し記述する。
- ・各々の英語と日本語の内容は、原則完全に一致したものとする。

---

(原稿送付先)

埼玉県立自然の博物館 研究報告編集委員会

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀨町長瀨1417-1

TEL: 0494-66-0407 FAX: 0494-69-1002

E-mail: t6604044@pref.saitama.lg.jp (添付ファイルは10MBまで)

\* 投稿予告カード及び整理カードは、当館のウェブページ (<https://www.shizen.spec.ed.jp/>) からダウンロードできます。